

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-09 コミュニ ケーション 実践学	20130586016101	●コミュニ ケーション実 践学I(コミュ ニケーション の比較文化)	和	E	波佐間 逸博	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-09 コミュニ ケーション 実践学	20130586016501	●コミュニ ケーション実 践学I(コミュ ニケーション の生物学)	和	E	岡田 二 郎	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-09 コミュニ ケーション 実践学	20130586016901	●コミュニ ケーション実 践学I(コミュ ニケーション とICT)	和	E	中村 千 秋	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-09 コミュニケーション実践学**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586016101	科目番号	05860161
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅰ(コミュニケーションの比較文化)		
編集担当教員	波佐間 逸博		
授業担当教員名(科目責任者)	波佐間 逸博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	波佐間 逸博		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生(クラス等)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	hazama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	大学院国際健康開発研究科2階		
担当教員TEL	095-819-7894		
担当教員オフィスアワー	月～金9時～17時(事前にメールなどで確認してください)		
授業のねらい	<p>文化的な他者が出会ったとき、友愛の情や誠意があれば、たがいに疎通できるか。たがいの慣習や言語を理解できれば、もう十分だろうか。出会うだけなら、それでいいのかもしれない。しかし、ひとたびおなじ生活社会にくらし、ひとつの職場ではたらくことをはじめるとすぐに、日常生活のあちこちでややこしい問題が生じる。文化人類学者という異文化のプロフェッショナルも例外ではない。そこには意識の外にあるレベルでの違い、コミュニケーションの実践の違いに由来する問題がある。そして、現代のように異文化接触のはげしい時代には、意識の下にある次元にたいする認識が大切だろう。</p> <p>この授業のねらいは、言語的・非言語的コミュニケーションの多様性と普遍性を、文化的・歴史的な諸事例をとおして理解することによって、他者との共生を可能にするコミュニケーションの実践力をつちかうことにある。</p>		
授業方法(学習指導法)	講義、グループワーク、プレゼンなど		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語的・非言語的コミュニケーションの多様性と普遍性の概要を説明できる(基盤的知識、環境の意義、多様性の意義)。 ・他者とともにある経験をめぐる探求、<社会的相互行為論>をはじめとする学問領域の概要を説明できる(基盤的知識、学問を尊敬する態度)。 ・文字と声の言語文化の特徴や歴史的な変遷、社会変化との関連を口述し、文章で表現することができる(批判的思考、社会貢献意欲)。 ・日常的な会話や身振りの社会的・歴史的な多様性について、事例をもとに具体的に説明することができる(多様性の意義)。 ・グループワークやグループプレゼンテーションを通して、授業で身につけた知識や自己の考えをまとめ、口頭および文章で発表することができる(自主的探究、批判的思考、日本語コミュニケーション力、自己成長志向、相互啓発志向)。 		
	<p>概要： ノンバーバルコミュニケーション(身ぶりとしぐさ)、バーバルコミュニケーション(会話分析)、共在のモード(集まりと身体接触)、オーラリティ(声の文化と文字の文化)といったテーマをもうける。それぞれのテーマの下、①導入 ②グループワーク ③グループプレゼンテーションとまとめ、の3パートに分割して、授業をおこなう。</p>		

授業内容	回	内容
	1	はじめに
	2	非言語コミュニケーション①
	3	非言語コミュニケーション②
	4	非言語コミュニケーション③
	5	言語コミュニケーション①
	6	言語コミュニケーション②
	7	言語コミュニケーション③
	8	共在のモード①
	9	共在のモード②
	10	共在のモード③
	11	オーラリティ①
	12	オーラリティ②
	13	オーラリティ③
	14	総括
	15	試験
16	フィードバック	
キーワード	声の文化、スピチュアリティ、アフリカ、文化多様性	
教科書・教材・参考書	特定の教科書は使用しない。	
成績評価の方法・基準等	試験：4割 平常点：6割 ・レポート（小レポート、レスポンスペーパー） ・プレゼンテーション ・資料要約	
受講要件（履修条件）	全回出席を前提とする。	
本科目の位置づけ	モジュールⅠ「コミュニケーションの実践学」の中での位置づけとして、コミュニケーションの基礎を学ぶ。	
学習・教育目標	コミュニケーションの文化的多様性と普遍性を説明できるようになることを目標とする。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-09 コミュニケーション実践学**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586016501	科目番号	05860165
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅰ(コミュニケーションの生物学)		
編集担当教員	岡田 二郎		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 二郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 二郎,篠原 一之,土居 裕和,西谷 正太		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	jokada@nagasaki-u.ac.jp (岡田)		
担当教員研究室	環境科学部本館227室(岡田)、医学部基礎研究棟3F(篠原)		
担当教員TEL	095-819-2762(岡田)、095-819-7033(篠原)		
担当教員オフィスアワー	月～金 12:10～12:40(岡田)、月～金 16:30～17:30(篠原)		
授業のねらい	ほとんどの動物は、何らかの手段を用いて個体同士での情報のやり取りをおこなっているが、これが現代の人間社会における複雑なコミュニケーションの礎となっている。ヒトを含めた動物では、種特異的な動作、音声、化学物質などのシグナルが送り手から発せられ、それらが受け手の感覚器で受信される。このシグナルは中枢に運ばれ、識別され、次に受け手が起こすべき応答のプログラムが生成され、最終的に返信シグナルが発現する。この一連のプロセスは、必然的に生物学的な意義が存在していて、いずれも脳神経系の機能を基礎としている。本講義では、生物学から見たコミュニケーションについて、その進化と多様性、および解剖学的・生理学的基盤に注目して学ぶ。		
授業方法(学習指導法)	PCプロジェクタ、クリッカー等を利用した講義の他、講義内容に関連する課題をおこなう(グループワーク含む)。		
授業到達目標	<p>(岡田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの生物学的意義を理解し、その進化と多様性について説明できる(基礎的知識、環境の意義、多様性の意義、学問を尊敬する態度) ・様々な動物におけるコミュニケーションの生理学側面について説明できる(基礎的知識、多様性の意義、学問を尊敬する態度) ・自主的に学ぶ態度を身につける(自主的探究、自己成長志向) ・メンバー間で積極的かつ協調的に課題解決に取り組み、最善の結論を得るための態度およびスキルを獲得する(日本語コミュニケーション力、相互啓発志向) <p>(篠原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのコミュニケーションに欠かせない認知・情動に関する脳基盤の基礎を理解し、説明できる(基礎的知識、自主的探究、学問を尊敬する態度)。 ・コミュニケーションに関連するホルモンや遺伝子等についても学習の範囲を広げ、更なる基礎知識を習得する(基盤的知識、自主的探究、学問を尊敬する態度)。 ・コミュニケーションの評価法としての行動・脳機能計測手法や、ホルモン、遺伝子解析等にも触れ、コミュニケーションを定量化するための知識を習得する(基盤的知識、社会貢献意欲、批判的思考)。 		
	回	内容	
	1	オリエンテーション：生物のコミュニケーションとは(岡田)	
	2	動物コミュニケーションの進化1(岡田)	

授業内容	3	動物コミュニケーションの進化1 (岡田)	
	4	動物コミュニケーションの生理学的基礎 (岡田)	
	5	昆虫の化学コミュニケーション (岡田)	
	6	コオロギの音声コミュニケーション (岡田)	
	7	小鳥の音声コミュニケーション (岡田)	
	8	前半の総括と中間評価課題 (岡田)	
	9	オリエンテーション ヒトのコミュニケーションとは	
	10	ヒトのコミュニケーションに関わる脳基盤 (認知・情動を司る脳機能)	
	11	ヒトのコミュニケーションに関わるホルモン、遺伝子	
	12	ヒトのコミュニケーションを司る脳の性差	
	13	男女間におけるコミュニケーションの脳科学 (恋愛)	
	14	親子間におけるコミュニケーションの脳科学 (母性・父性、愛着)	
	15	脳科学・行動実験体験	
	16	後半 (ヒトのコミュニケーション) の総括と期末評価課題	
	キーワード	岡田：多様性、脳神経系 篠原：進化・社会化・神経現象学・ソーシャル・レイズ [®]	
	教科書・教材・参考書	岡田：WebClassに掲載する資料、配布資料等を用いる。 篠原：スライドを用いた講義を行う。	
成績評価の方法・基準等	岡田：予習課題 (30%)、講義中のグループ課題 (30%) と第8回目の中間評価課題 (40%) による。 篠原：出席点50%、課題50%		
受講要件 (履修条件)			
本科目の位置づけ	「コミュニケーション実践学」のモジュールⅠ科目としてコミュニケーションの基礎を学ぶ		
学習・教育目標	岡田：動物のコミュニケーションについて、進化生物学、行動生態学および生理学的観点から説明することができる。 篠原：ヒトのコミュニケーションに欠かせない認知・情動に関する脳基盤の基礎を理解し、説明できる。		
備考 (URL)			
備考 (準備学習等)	岡田：高校生物における刺激の受容と反応、および動物の行動と生態について復習しておくが良い。 篠原：脳に関する一般書等からの予備知識があると良い。		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-09 コミュニケーション実践学**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586016901	科目番号	05860169
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅰ(コミュニケーションとICT)		
編集担当教員	中村 千秋		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 千秋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 千秋		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	sonny@i.edu.nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館308		
担当教員TEL	819-2325		
担当教員オフィスアワー	月曜5限		
授業のねらい	<p>高度情報化社会を向えた現在、我々がコミュニケーションをとれる範囲が驚くほど広がっている。これは ICT (情報通信技術) が非常に発達したおかげである。この技術を用いたコミュニケーションは、時として国や社会を変化させる力をも持ち始めている。しかしながら、ICTを使ったコミュニケーションには、光の部分と影の部分が存在することも確かである。</p> <p>そこで本講義では、ICTの現況と課題を理解するために、インターネットの歴史と動向、情報通信の仕組み、情報セキュリティ、ソーシャルメディア、情報化の光と影等の内容を学習する。</p>		
授業方法(学習指導法)	各セクションごとに、個々に調べ学習を行ってきたものを、グループ討議を行うことで考えをまとめあげる。このため、毎回、予習および課題がある。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの基礎技術の概要を説明できる(基盤的知識、自主的探究、学問を尊敬する態度)。 ・インターネットの利用に関する問題と注意点を考え、説明することができる(基盤的知識、自主的探究、批判的思考)。 ・情報セキュリティを守るための基本的方策を行うことができる(基盤的知識、社会貢献意欲)。 ・知識共有サイトの仕組みと問題点を説明できる(自主的探究、批判的思考)。 ・ソーシャルネットワークサービスの特徴と利点、危険性について説明できる(基盤的知識、社会貢献意欲)。 ・調べ学習・グループ学習を通して、自己の考えをまとめ、グループで精査し、まとめあげていくことができる(自主的探究、行動力、日本語コミュニケーション力、自己成長志向、相互啓発志向)。 		
	ICTの現況と課題を理解するために、インターネットの歴史と動向、情報通信の仕組み、情報セキュリティ、ソーシャルメディア、情報化の光と影等の内容を学習する。		
	回	内容	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション <p>予習課題: インターネットの発展の歴史について調べてきなさい。</p>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの歴史について(1) <p>グループワーク</p> <p>インターネットはどうやって発展してきたか。</p>	

授業内容		予習課題: インターネットに関する問題について調べてきなさい。
	3	・インターネットの歴史について(2) グループワーク インターネットの現状の課題は何か。 (1)と(2)をまとめてレポート提出
	4	・インターネットの歴史の課題の振り返り ・インターネットの仕組みについて(1) 講義形式で行う。
	5	・インターネットの仕組みについて(2) 講義形式で行う。
	6	・インターネットの仕組みについて(3) 講義形式で行う。
	7	・インターネットの仕組みについて(4) 講義形式で行う。
	8	・情報セキュリティについて(1) 講義形式で行う。 情報セキュリティとは何か。 いま何が起きているのか。 講義で見たビデオの内容をまとめてレポート提出
	9	・情報セキュリティについて(2) 講義形式で行う。 情報セキュリティを守るために何をやらなければならないか。 講義で提示する課題についてレポートを提出しなさい。 予習課題: ソーシャルネットワークサービスとは何か、どのようなサービスがあるのか、その特徴は何かを調べてきなさい。
	10	・ソーシャルネットワークサービスについて(1) グループワーク ソーシャルネットワークサービスとは何か。 どのようなサービスがあるのか。
	11	・ソーシャルネットワークサービスについて(2) グループワーク 予習課題: ソーシャルネットワークサービスを使って面白い使い方をグループごとに考えなさい。
	12	・ソーシャルネットワークサービスについて(3) グループワーク 考えた面白い使い方の発表
	13	・ソーシャルネットワークサービスについて(4) グループワーク 考えた面白い使い方の発表 予習課題: ソーシャルネットワークサービスの危険性について調べてきなさい。
	14	・ソーシャルネットワークサービスについて(5) グループワーク ソーシャルネットワークサービスの危険性について
	15	試験
	16	試験の振り返り
	キーワード	情報システム ソーシャルメディア メディアリテラシー 知識基盤社会 ICT
教科書・教材・参考書	教科書は特にないが、参考資料を提示する。	
成績評価の方法・基準等	予習課題・課題 40% 試験 60% 60点以上を合格とする。	
受講要件(履修条件)	毎回出席すること。	
本科目の位置づけ	「コミュニケーション実践学」のモジュールIの科目として、コミュニケーションの基礎を学ぶ。	
学習・教育目標	高度情報化社会を支えるコミュニケーション技術とその課題を説明できる。	
備考 (URL)		

備考（準備学習等）

本講義では、資料の配布、レポートの提出等でWebclassを使用するので、使い方に慣れておくこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.